

1: 出席者

加藤^a・大西^b・千葉・片山・能登・平林・岡部・大塚^c・吉田^c・セルゲイ^c・鈴木^c・須田^{c,d}
(^a:委員長, ^b:議長, ^c:オブザーバー, ^d:書記)

2: 報告

- メンバー確認
 - 加藤(委員長)・大西(議長)・千葉・片山・能登(年次報告担当)・平林(年次報告担当)・岡部・升井
 - 升井氏が新たに管理運営委員会メンバーとして加わった。
 - オブザーバー：大塚・吉田・セルゲイ・鈴木(書記)・須田・簀口
- VBL との共同研究について(加藤)
 - COE のメンバーに鈴木が加わった。
 - B. Giraud ともう一名を外国人招聘枠として申請した。
- 原子力学会で検索・作図システムの現状報告を行なった。(大塚)
- 検索・作図システムで実験データと評価データの重ね描きが可能になった。(須田)
- ワーキンググループの議事録の報告。レポート(ntx-wg 2004-30,31,2005-1,2 参照)(能登)

3: 議論

- 今後の活動方針について
 - 核データの評価について活動を進める必要がある。
 - 概算要求で、常勤の研究者が業務に携わる必要があるとの主張を行なった。
- 国際核データ網で採録対象論文を回覧する際の著作権問題について
 - 論文の PDF ファイルを認証つきで IAEA から外部に配布することが検討されている。
 - ◇ いくつかの問題が議論された。契約上問題があるかどうか調べた上で回答する。
- 助言委員のメンバーについて
 - 実験データの収集効率が向上することも期待して、新規に助言委員を加えたい。
 - 現助言委員には年度始めに委員を継続してもらえるかどうか問い合わせ、辞退されない限り継続してもらおう。
- INS の核研レポートとして図書館に保管されている数値データの採録について
 - INS シリーズは全部で 186 冊あり、論文に掲載されているものは半分程度である。
 - 論文に図が掲載されており、数値データがレポートに残っている場合は採録する。
 - 論文に掲載されていないが採録可能な数値データについては、優先順位を下げても試験的に採録を行なう。
- 新規コードについて
 - DBL(W), DBL-DIFF-XSECTN(V) (新規)

- ◇ 承認とする。
- AYY – Tensor analyzing power A(yy) (展開形の修正)
- (DELTA-)IT11 – (Error in) Vector analyzing power iT(11) (展開形の修正)
- (DELTA-)AY – (Error in) Vector analyzing power A(y) (新規)
- (DELTA-)ANALPW – (Error in) Analyzing power (廃止 (H, V-7))
- (DELTA-)VCTR-ANALPW – (Error in) Vector analyzing power (廃止 (H), V型では残す)
- (DELTA-)TNSR-ANALPW – (Error in) Tensor analyzing power (廃止 (H), V型では残す)
- (DELTA-)AXZ – (Error in) Tensor analyzing power A(xz) (新規)
- ◇ 上記をすべて承認とする。LEXICONを整備する
- TRPL(W), TRPL-DIFF-XSECTN(V) (新規)
- ◇ 承認とする。
- HPGE : Hyperpure Germanium detector (新規)
- ◇ 承認とする。
- 年次報告書の提出期限が過ぎているので、5月6日までに提出してほしい。
- SPES, SPES-Jに関する報告書は一つにまとめる。著者：須田、内藤、大塚
- McLane Symposiumに関する報告書の冒頭部分の執筆担当者：加藤
- 検索・作図システムのデモンストレーション

4: 次回

2005年5月16日 18:30~